

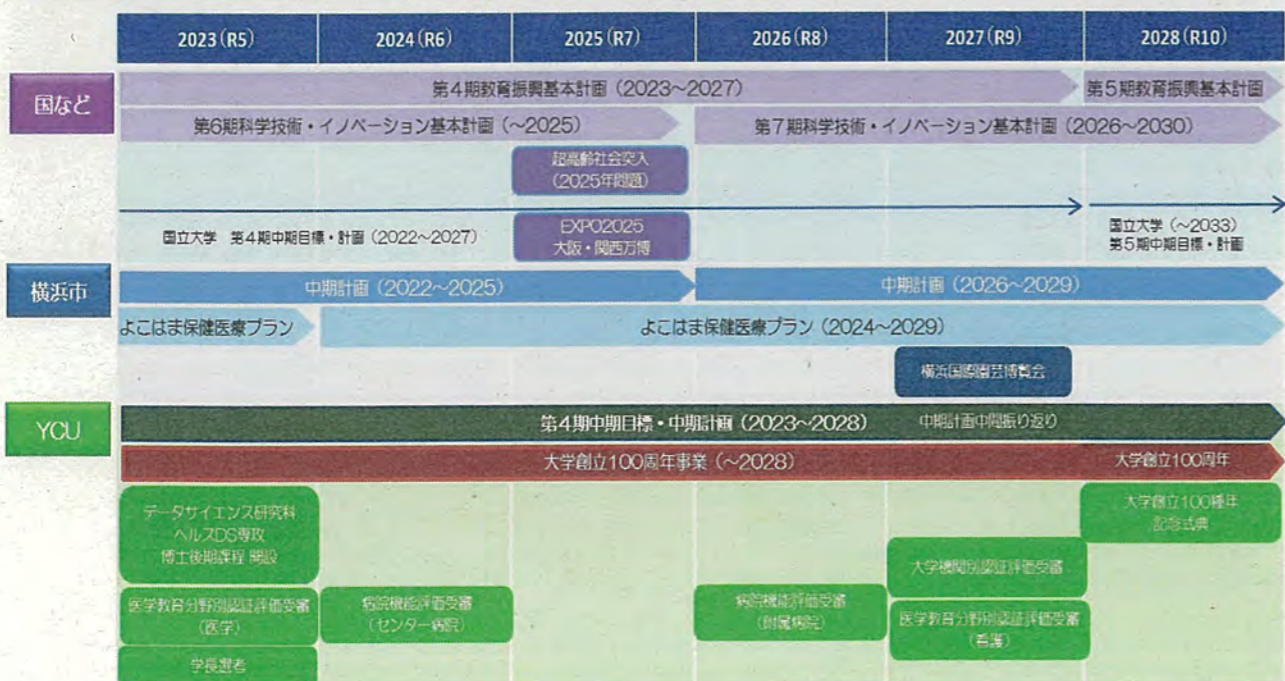
1 第4期中期計画における法人が目指す方向性

- 「研究の横浜市立大学」として、研究成果の社会実装を推進するとともに、社会の要請や変化に柔軟に対応し、地域や社会の課題解決につなげることで、地域及び社会全体の発展に貢献
- 公立大学として地域や社会への貢献の位置づけを改めて明確化し、「知の拠点」としての取組を推進
- 厳しい経営状況にあっても教育・研究・医療を充実させるために、効率的・効果的な法人経営を実行
- 横浜市立大学の役割や使命を教職員が意識しながら教育・研究・医療に取り組む組織風土を構築
- 医学部・病院等再整備事業の検討を進めるとともに、創立100周年(R10)に向け、更なる発展

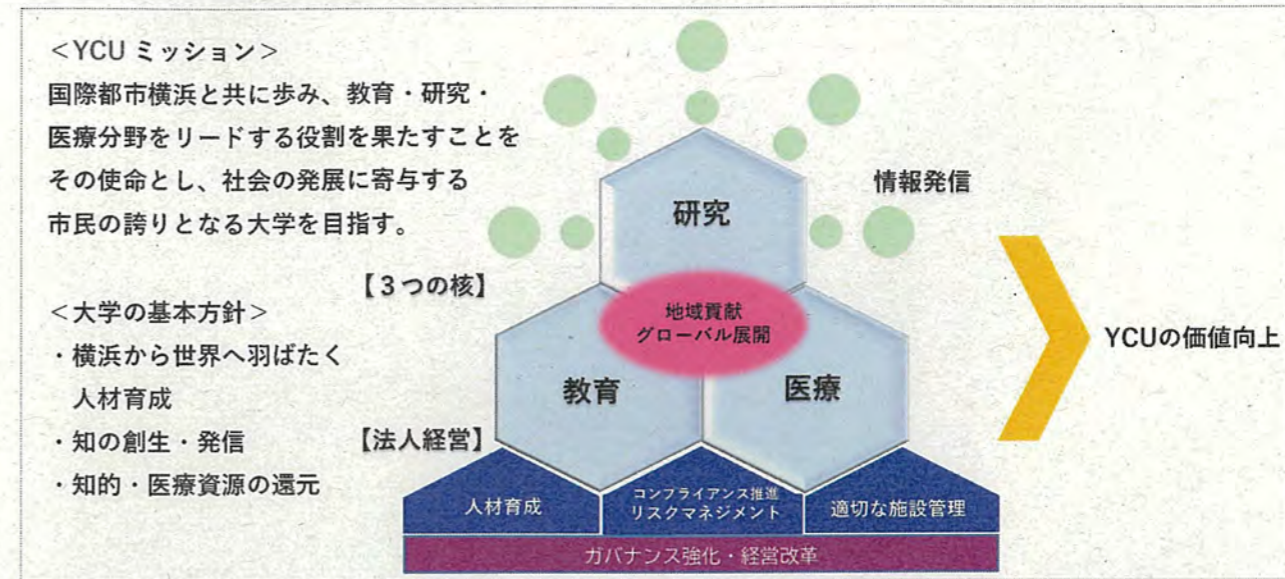
2 各分野の基本的な考え方

分野	基本的な考え方
教育	問題発見・課題解決力の涵養と新たな価値を創造する人材の育成と学生支援
研究	基礎的研究力及び高い研究倫理を土台とした戦略的かつ先進的な研究及び学際的研究の推進
医療	高度で安全な医療を提供し、地域医療の最後の砦として、市民に信頼される大学病院
法人経営	社会の変化に柔軟に対応できる持続可能な法人経営の確立
地域貢献 (横断的項目)	横浜市立大学の長をを活かした、社会とつながる地域貢献の推進
グローバル展開 (横断的項目)	“量から質へ” 国際社会と連動したグローバル展開

3 第4期中期計画期間中の動向



4 第4期中期計画の概要図



5 第4期中期計画における主な取組と指標（抜粋）

分野	主な取組【計画No.】	主な指標
教育	【1】教育の質保証 ・教学 IR <sup>1</sup> や FD <sup>2</sup> ・SD <sup>3</sup> の取組を推進 ・社会情勢に則した新たな教育手法を展開し、教育の質を向上	・教学 IR と連動した FD 実施回数：1回/年 ・FD・SD 受講率：80%/年
	【2】全学共通の教育の推進 ・(学部) データ思考教育など時代に即した教育を充実 ・(研究科) 学際的連携を推進し、領域横断型教育を実践 ・(グローバル) 国際的にリーダーシップを発揮できる人材の輩出に資する留学体系を整備し、質の高い多様な留学プログラムを構築	・数理・データサイエンス・AI 教育プログラム履修率：50%/ (令和7年度以降)
	【8】学生生活支援 ・多様な学生が安心して充実した学生生活を送れるよう、経済的支援及び心身の健康に関する支援を実施 ・課外活動における、地域貢献や SDGs の取組への支援を推進	・課外活動支援数 (SDGs 関連)：4件/年 ・ボランティア派遣数：650人/年
	【10】キャリア支援 ・キャリア形成科目やインターンシップのさらなる充実 ・社会や地域で活躍する人材、国際社会の発展に貢献できる人材の輩出に向けた多様なキャリア支援・教育の実施	・就職希望者における就職率：全国平均値1%超/年 ・学生満足度：第3期の平均 (89%) 超/年
	【11】リカレント教育 (社会ニーズに対応したプログラムの充実) ・本学の強みを活かし、社会の変化に対応できる実践的・専門的な知識や能力の修得を目的とする教育プログラムの充実	・「リカレント教育」に係るプログラム設置数：15件/最終年度

<sup>1</sup> IR (Institutional Research)：計画立案、政策形成および意思決定等のサポートをするために必要な「情報提供」を目的とした、学内外データの収集・分析機能のこと  
<sup>2</sup> FD (Faculty Development)：授業方法、内容を改善、向上させるための組織的な取組  
<sup>3</sup> SD (Staff Development)：教職員の職能開発のための組織的な取組



分野	主な取組【計画No.】	主な指標
研究	【13】各領域における研究活動の推進 ・学長のリーダーシップのもと、研究 IR により本学の「強み」や今後期待される研究分野を見出し、革新的な研究成果を創出 ・学問の分野を超えた学際的研究を推進	・主要な学術誌等掲載論文数 *Web of Science 掲載：第3期の実績 10%増/期間
	【14】オープンイノベーションの推進 ・産学官連携や知的財産の活用促進、大学発ベンチャーの創出等を通じて、研究成果の社会実装を目指す ・大型産学官共創拠点事業を組織的に推進	・ベンチャー創出数累計数：15件/期間中 ・共同・受託研究：第3期の実績 5%増/期間中
	【15】研究基盤の強化 ・効率的・効果的に研究できる機器や設備等を整備 ・研究支援人材の育成と学内連携の促進	・科研費採択件数及び科研費獲得金額：第3期の実績 5%増/期間中
医療	【17】患者本位の医療の提供 ・患者自身が自分らしい治療を選択し、納得感をもって治療を受けることができるよう、患者本位の医療に対する意識の向上を図る	・患者満足度： 【附】・【セ】 80% /最終年度
	【21】高度で質の高い医療の提供 ・附属2病院の統合を視野に入れた医療機器や施設・設備の計画的な更新に加え、豊富な症例と各々の強みや特色を活かした診療機能の充実を図る	・手術件数： 【附】 7,500件 【セ】 9,600件 /最終年度 ・臨床指標に基づく医療の質の向上
	【23】政策的医療の推進 ・附属2病院で連携して、他の医療機関では対応できないような緊急性及び重症度が高い患者を中心に救急患者の受入を積極的に行い、地域における「最後の砦」としての役割を果たす	・救急応需率： 【附】 90% 【セ】 90% /最終年度
	【24】地域医療への貢献 ・市や県の地域包括ケアシステムを踏まえながら、地域の医療機関との紹介・逆紹介の更なる推進により連携強化・機能分化を進め、在院日数や外来患者数を適正化	・紹介割合：【附】 90% 【セ】 100% /最終年度 ・逆紹介割合：【附】 60% 【セ】 50% /最終年度
	【25】医療人材の育成 ・高度化・複雑化する医療への対応を図るため、スキル向上に向けた取組を推進 ・シームレスな教育研修体制を意識した良質で魅力的な研修プログラムの整備や各分野における交流と連携	・特定行為研修を修了し、附属2病院において該当特定行為に従事する看護師数：【附】 6名【セ】 12名 /最終年度 ・研修医マッチング率： 【附】・【セ】 100%/年
法人経営	【26】ガバナンス強化 ・コンプライアンスの推進をはじめとしたガバナンスの強化	・「公立大学ガバナンス・コード」に基づくガバナンス体制の推進
	【29】法人全体の効率的かつ効果的な運営 ・外部資金の更なる獲得、管理する拠点（キャンパス）等のあり方の検討、学部・研究科ごとの評価指標及び特徴等の整理、企業連携、DX 推進などの経営改革を中長期的な視点で実行	・経営改革に資する取組の推進

分野	主な取組【計画No.】	主な指標
法人経営	【33】教職員が生き生きと働くための組織風土の醸成 ・全ての教職員が誇りや充実感を持って働くことのできる環境の実現に向け、ライフステージに応じた柔軟な働き方を構築	・教職員意識調査（ダイバーシティ推進関連）：2.7点以上/4点満点
	【34】創立100周年事業の実現 ・記念式典の開催、百年史の発刊（令和10年度）、機運の醸成	・創立100周年記念事業プロジェクトの実施
	【38】コーディネート機能の強化による地域連携の推進 ・地域と大学をつなぐ仕組みづくりによりマッチングを推進 ・行政と連携し、市のシンクタンク機能として役割を果たす	・市の施策立案等に関わる連携取組件数：50件/最終年度
	【39】附属2病院における連携の推進及び経営基盤の強化 ・附属2病院間の連携を強化、診療機能に見合った収益を確保 ・物品調達等をはじめ、共通化や共同購入を進め、コストを抑制	・附属2病院の協働による取組の推進
	【40】医学部・病院等再整備の検討 ・市と連携し、新医学部・病院等が目指す姿や備える機能を検討	・実施計画の策定など再整備に向けた検討の推進
【42】交流を意識したキャンパスの充実 ・イノベーション・commons（共創拠点）に資する「交流の場」を計画的に整備	・交流・共創を推進する施設機能の整備	

【参考】第3期中期計画期間（平成29～令和4年度）における主な成果

【大学】

- データサイエンス学部・医学研究科看護学専攻博士後期課程(H30)、国際教養学部・国際商学部・理学部(R1)、データサイエンス研究科(R2)の設置
- 高等教育推進センター (R4) を設置し、全学横断的に教育の質保証及び教育改革を推進
- リーダーシップスキルの習得を目指すプログラム(R2)や教理・データサイエンス・AIの基礎的能力を身に付けるプログラム(R3)など、時代に即した領域横断型教育プログラムの設置
- コロナ禍における「特別災害支援制度」の創設及び一時金の支給(R2)や「食の支援」の実施などの学生支援、オンライン及び対面授業の両方に対応するための学修環境整備
- 産学連携イノベーションの創出に資する社会人教育拠点として「みなとみらいサテライトキャンパス」を開設(R2)
- 先端医科学研究センターを中心としてゲノム研究や再生医療など、将来の医療につながる最先端のトランスレーショナルリサーチを推進
- 医学や生物学、バイオサイエンスなどの研究実績が評価され、イギリスのタイムズ・ハイヤー・エデュケーションの世界大学ランキングにおいて公立大学では4年連続1位を獲得
- 地域貢献コーディネーターの配置(R2)により、学外ニーズと本学の知的資源・研究シーズのマッチング、市との連携を推進

【病院】

- 「がんゲノム医療連携病院」の指定(附：H30、セ：R1)や遠隔医療体制(Tele-ICU)での診療支援の開始(R2)など、大学病院としての医療機能の充実及び政策的医療の提供
- 令和2年2月の横浜港へのクルーズ船着岸以降、現在に至るまで地域医療の最後の砦として「新型コロナウイルス感染症対応」と「質の高い医療提供」を両立